

「天文学とプラネタリウム」

塚田 健（東京学芸大学）

“ Astronomy | Planetarium ”

Ken Tsukada (Tokyo Gakugei University)

Abstract

“ Astronomy | Planetarium ” is the field where Astronomical students and Planetarium meets each other. I'll introduce activities derive from our community.

0 . おことわり

ここで言う「プラネタリウム」とは、装置としてのプラネタリウムではなく、スタッフや来館者を含めた総合的な施設としてのプラネタリウムである。また、「天文学とプラネタリウム」という名称ではあるが、プラネタリウムに限らず、科学館などの科学教育系施設全体を対象としている。

1 . はじめに

天文学を研究している学生の中には、天文学の普及に興味のある学生が少なくない(図 1 : 高梨・平松 2003)。また、プラネタリウム側も学生との協力事業に興味のある館が多いことがわかる (図 2 : 高梨・平松 2003)。

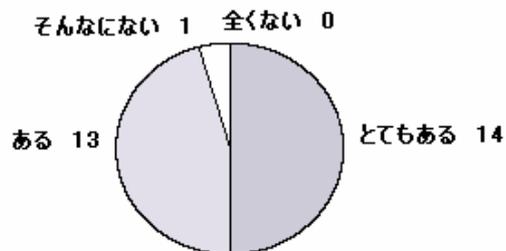
「天文学の広報普及活動に興味がありますか？」



2003年度天体物理若手の会
分科会「天文学と社会」にてアンケート調査

図1 天文普及に対する学生の意識

「天文学の普及に興味を持つ学生との協力事業に興味がありますか？」



2003年度日本プラネタリウム協会(JPS)研究
協議会にてアンケート調査

図2 学生との協力事業に対するプラネタリウム側の意識

このように、それぞれお互いに協力してみたいという意識は高いものの、実際に学生とプラネタリウム館が協力して行った天文学普及活動の実践例は少ないのが現状である。これには、以下のような原因があると考えられる。

< 学生側 >

そもそも、プラネタリウムがどのような施設なのか、どういう活動を行っているのかわからない。

プラネタリウム側からの提案がこない。

こちらから提案したくても、どうすればよいかわからない。プラネタリウムとの接点がない。

<プラネタリウム側>

学生の方がよくわからない。学生の天文普及に対する興味が見えない。

学生との接点がない。どこに声をかければいいのかわからない。

つまり、今まではそれぞれお互いに相手のことをよく知らなかった、わかっていなかった、出会う場所がなかった、ということだったのである。ならば出会いの場を作ろう、と天文学を研究する大学院生・学部生が集まり活動を始めたのが「天文学とプラネタリウム（以下、天プラ）」のはじまりである。

2. 「天プラ」とはどのような集まりなのか？

天プラは、前述したように「天文学普及に興味を持つ学生」と「学生との協力事業に興味のあるプラネタリウム関係者」が出会い、お互いを知り合う「場」であり、双方にとって互いに協力できるようになるための「きっかけ」である。天文学普及に対するコンセプトは各自で異なるわけで、「天プラとしての企画」というものが存在するわけではない。メンバー各々が、天プラでエネルギーをもらって自分のコンセプトで天文普及の場へと広がっていければよいのである。そのための意見交換の場として天プラ ML(メーリングリスト)があり、2004年8月現在で約90名の学生・プラネタリウム関係者がMLに参加している。図3に現在MLに参加しているメンバーの分布を示す(学生の場合は所属する大学の所在地)。図を見てもわかるように、現在のメンバーは関東や関西などの大都市圏に集中してしまっている。しかし、大都市にない、予算的にも規模が小さいプラネタリウムこそ、学生との協力事業が有効であると考えている。今後、全国にこのような輪を広げ、それぞれの地方において学生とプラネタリウムが連携できるようにしていきたい。

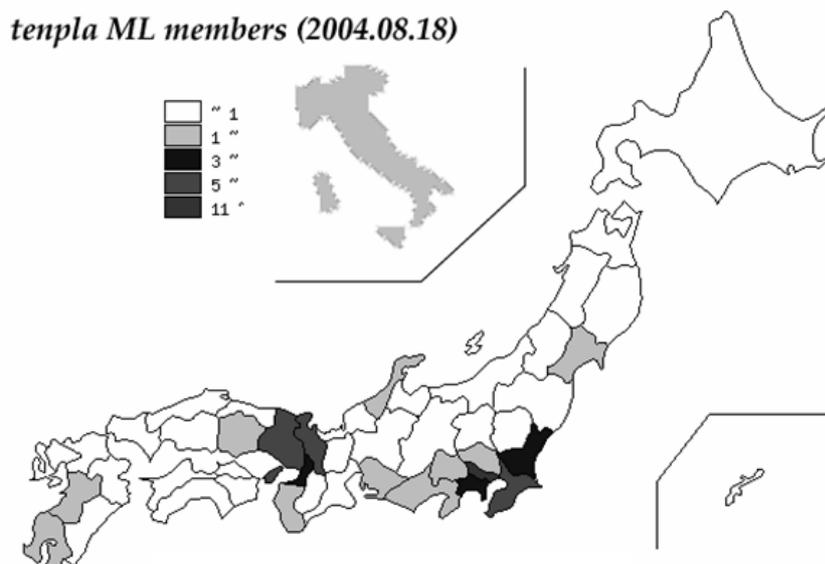


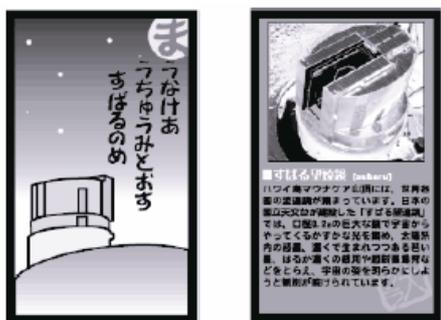
図3 天プラ ML メンバーの分布

3. 天プラから派生した活動例

天プラでの出会いがきっかけとなって実際に行われた活動には以下のようなものがある。

- ・相模原市立博物館での「子ども天文教室」に講師として参加〔宇宙研 D〕(写真 1)
- ・葛飾区郷土と天文の博物館でプラネタリウム番組にゲスト参加〔東大 M〕
- ・明石市立天文科学館で天文進路相談会開催〔京大 M〕
- ・会報「テンプラ・ネット」の作成 (東大 + 学大 + 京大)
- ・ATP (Astronomical Toilet Paper) の製作 <製作中>〔東大 M ほか〕
- ・あすとろかるたの製作 <企画中>〔東大 M ほか〕(図 4)
- ・天文学普及タイピングゲームの作成 <作成中>〔日大〕

上記の活動は一部であるが、このようにプラネタリウムとの協力事業に加えて、ML での意見交換からプラネタリウムで販売できるような天文グッズの製作など、活動は多方面に広がってきている。



▲ これが「あすとろかるた」。裏面 (右) には解説がつく。

図 4 あすとろかるた



写真 1

4. 天プラの現状と今後の展望

天プラが誕生して今年の 8 月で 1 年が経過し、さまざまな問題点も浮上してきた。

まず、メンバー同士の顔が見えにくいということがある。出会いの場・お互いを知り合う場であるにも関わらず、メンバーが日本全国に広がっているため集まることが難しく、どうしても ML での交流となってしまう。その割には ML での議論が活発とはいえない。今までも、プラネタリウム見学会を数回行ってきたが、やはり集まることには限界がある。しかし、お互いの主張・方向性・専門性などがわからなければ協力関係も生まれにくい。そのため、今後はプラネタリウム見学会 (学生の研究室訪問なども検討) を活発にしていくことももちろんだが、web 上に学生やプラネタリウムの紹介の場を作りたいと考えている。掲載項目はこれからの検討事項であるが、互いの主張がわかりあえるものにしていきたい。

また、今後はさらに幅広いジャンルの人間を人の参加を呼びかけたい。たとえば、学生であれば天文学を専攻している必要はなく、教育系はもちろん芸術系の学生などとも協力ができるはずである。さまざまな天文学普及の方法を実現できるように、それぞれのジャンルの人間が、お互いを補い合えるネットワークを作っていければと考えている。

5 . 天プラへのアクセス

天プラについてさらに詳しく知りたい方は Webpage (図 5) を参照してほしい。前出の天プラ会報「テンプラ・ネット」も、ここから pdf ファイルでダウンロード可能である。また、ML への参加を希望する方は下記アドレスか私、塚田までご連絡いただきたい。

ML への参加 : takanashi-tenpla@ioa.s-u-tokyo.ac.jp



図 5 天プラ Web URL : <http://www.ioa.s.u-tokyo.ac.jp/~takanashi/tenpla/>

コメント

施設サイドは学生の人材データベース、学生サイドは気軽に行ける施設・スタッフデータベースになる方向で、お互いにどんどん情報を集めるときっとより仲よくなると思うのでがんばってください！(安田岳志・星の子館)